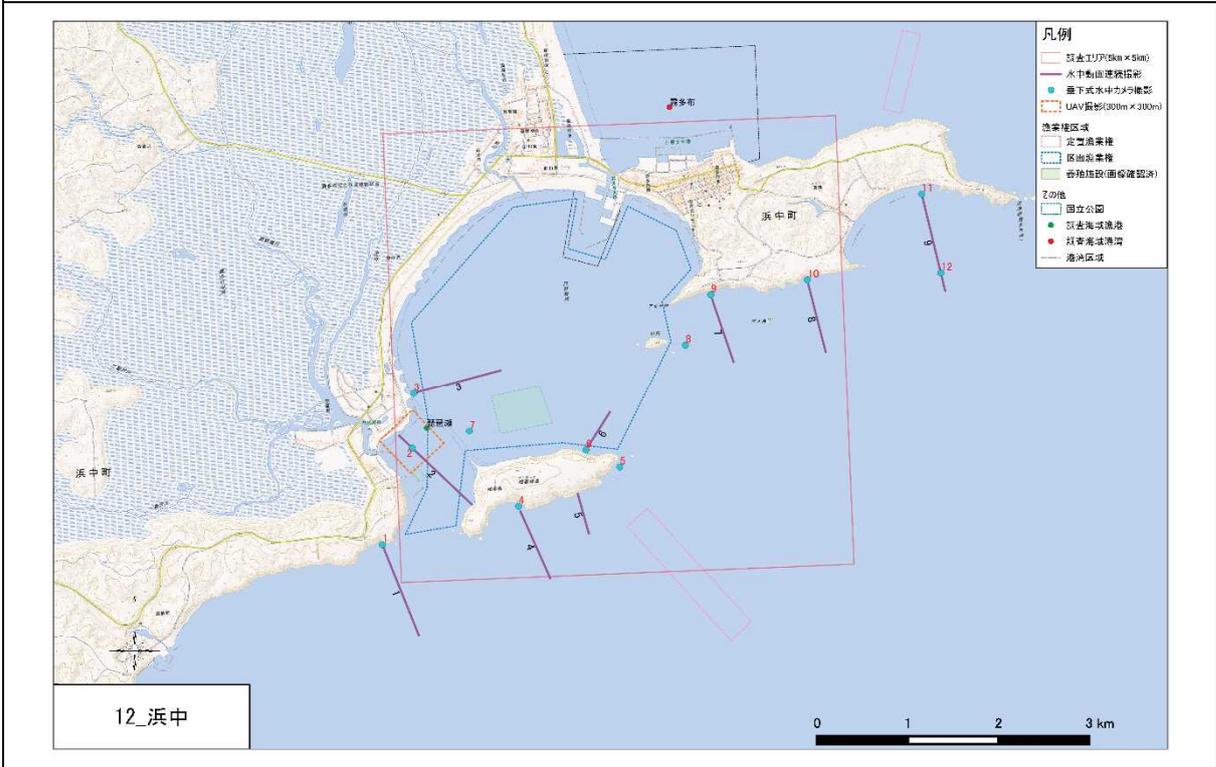


(1) 調査海域名	北海道沿岸海区 浜中
(2) 調査海域の所在	北海道厚岸郡浜中町周辺

(3) 調査海域及び調査位置図



(4) 調査位置の詳細 (JGD2011)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	始点				終点				測線距離 (m)
	緯度	経度	緯度	経度					
1	-	-	-	-	-	-	-	-	1,047
2	-	-	-	-	-	-	-	-	1,107
3	-	-	-	-	-	-	-	-	990
4	-	-	-	-	-	-	-	-	809
5	-	-	-	-	-	-	-	-	715
6	-	-	-	-	-	-	-	-	721
7	-	-	-	-	-	-	-	-	730
8	-	-	-	-	-	-	-	-	774
9	-	-	-	-	-	-	-	-	1,122
総測線距離									8,015

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年 8 月 27 日、28 日

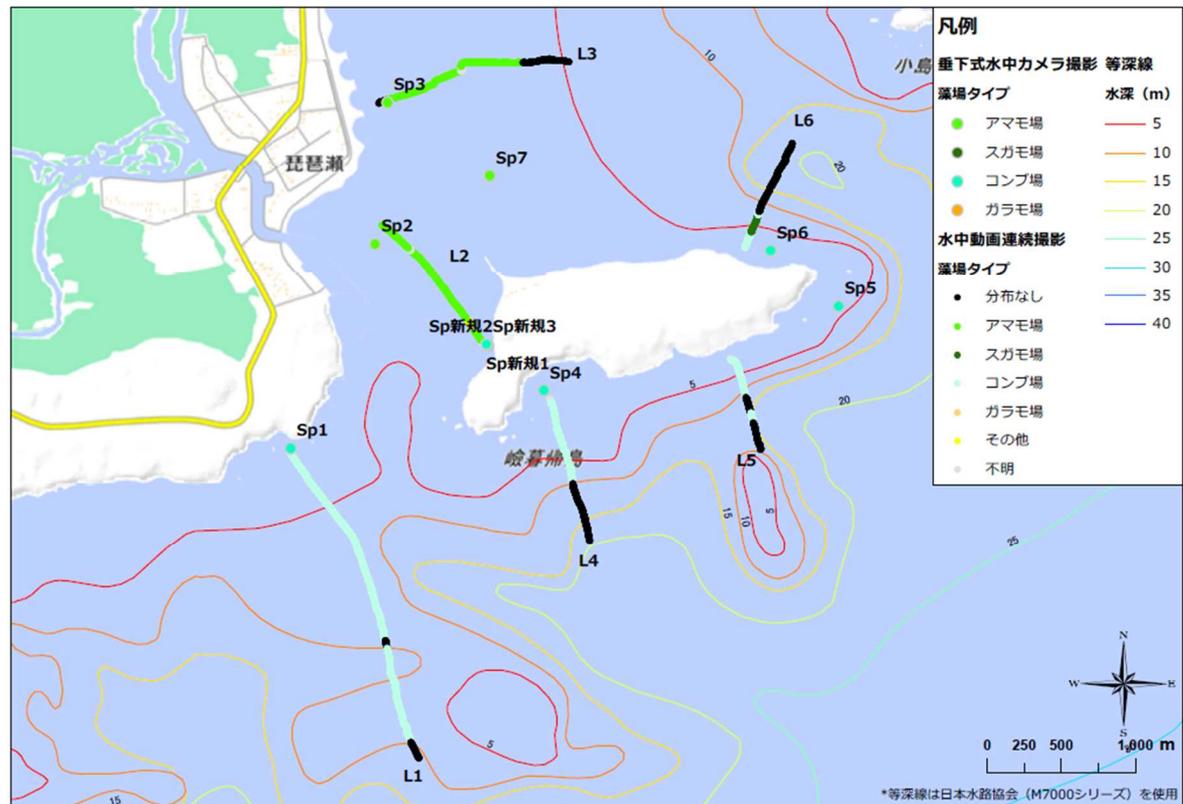
(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容  
株式会社エル技術コンサルタント 代表：石田翔吾

(7) 調査海域の概要

琵琶瀬と唼暮帰島に囲まれた琵琶瀬湾は、汀線から沖に向かって砂泥の底質がなだらかに傾斜する地形をもつ。この範囲ではオオアマモ一種によって藻場が形成されており、周辺にはウバガイやクリガニが生息する（第 7 回自然環境保全基礎調査）。年間平均風速は 8.0 m/s を以上であり、洋上風力施設設定可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。  
 ≪参考≫ 第 7 回自然環境保全基礎調査

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1～6 の状況



測線 1 の状況：水深約 2～9 m 付近の岩盤上ではナガコンブが最大被度 80% で密生し、その他にアイヌワカメ（被度 5% 未満）、紅藻類（被度 5% 未満～30%）の海藻が観察された。水深約 9～12 m ではアナメ（被度 5% 未満～30%）を主体としてみられ、一部にナガコンブ（水深約 12 m、被度 5% 未満）が観察された。水深 13 m 以深では、海藻草類はみられなくなった。

測線 2 の状況：水深約 1 m で、岩盤と砂質域に岩盤が混じってみられる測線であった。測線の岸よりではオニコンブが最大被度 80% で密生し、スガモや緑藻類が被度 5% 未満で混生してみられた。沖に向かうに従いオオアマモが最大被度 80% で密生して観察され、ウガノモク（最大被度 80%）や紅藻類（被度 5% 未満）が混生して確認された。

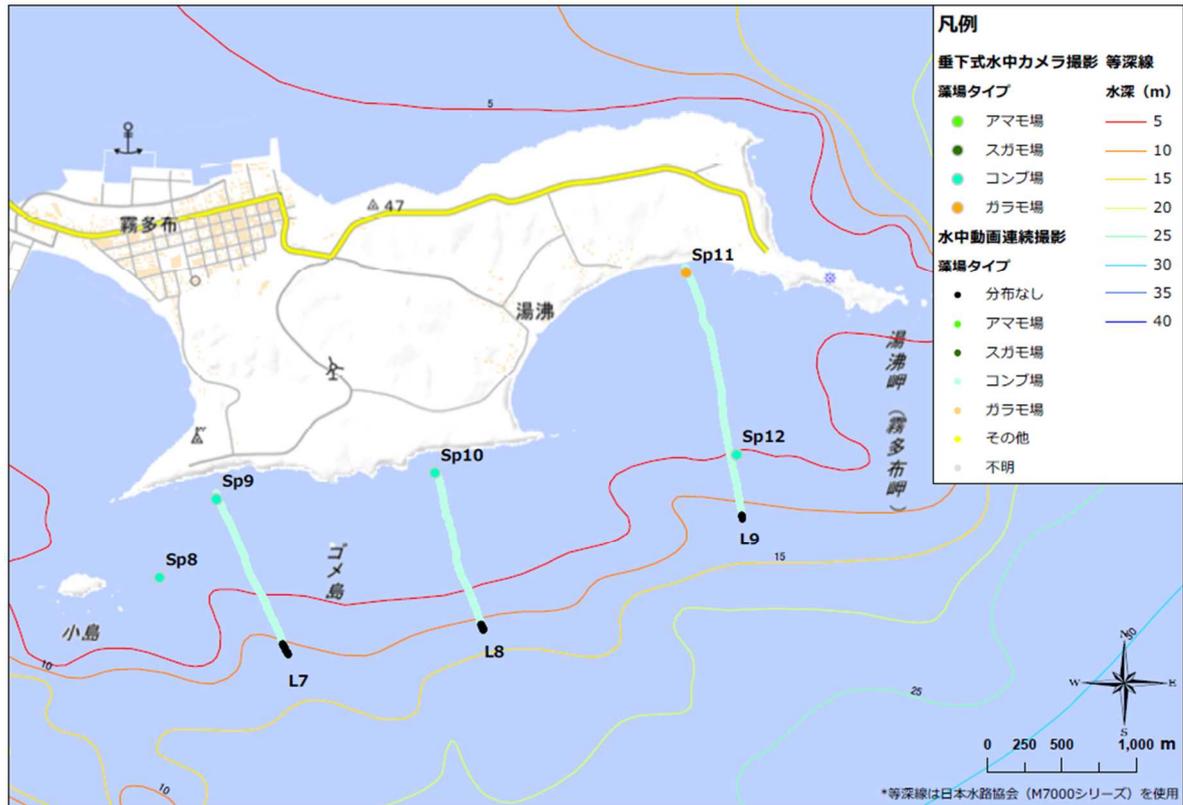
測線 3 の状況：水深約 1～5 m で、砂質域を主体とする測線であった。測線全体でアマモ類（アマモやスゲアマモを含む）が被度 5% 未満～30% でみられ、その他にシオミドロと緑藻類（ともに被度 5% 未満）が観察された。水深 5 m 以深では海藻草類はみられなくなった。

測線 4 の状況：水深約 2～18m で、岩盤と砂が混じる底質をした測線であった。水深約 5 m 以浅はナガコンブが最大被度 80% で密生し、その他にアイヌワカメ（被度 5% 未満～30%）、スジメ（5% 未満～20%）、ウガノモク属（5% 未満）、紅藻類（5% 未満）の海藻が観察された。水深 9～13 m 付近では、アナメが被度 5% 未満～20% で観察された。水深 13 m 以深では岩盤が広がるが、海藻草類はみられなかった。

測線 5 の状況：水深約 3～19 m で、岩盤を主体とする測線であった。水深 11 m 以浅ではナガコンブが最大被度 80% で密生し、その他にスガモやスジメ、ウガノモク属、紅藻類（すべて被度 5% 未満）の海藻草類が観察された。それ以深ではアナメが被度 5% 未満～20% でみられる範囲と、海藻草類がみられない範囲が交互に観察された。

測線 6 の状況：水深約 2～21 m で、岩盤を主体とする測線であった。水深 3 m 付近ではナガコンブが最大被度 70% で密生し、スガモ（被度 5% 未満～10%）やアイヌワカメ（5% 未満）、スジメ（5% 未満）、オニコンブ（5% 未満）が混生して観察された。水深 4～10 m 付近ではナガコンブの被度が 5% 未満となり、アナメが被度 5% でみられた。水深 15 m 以深は、砂を主体とする底質となったが、海藻草類はみられなかった。

○測線 7～9 の状況

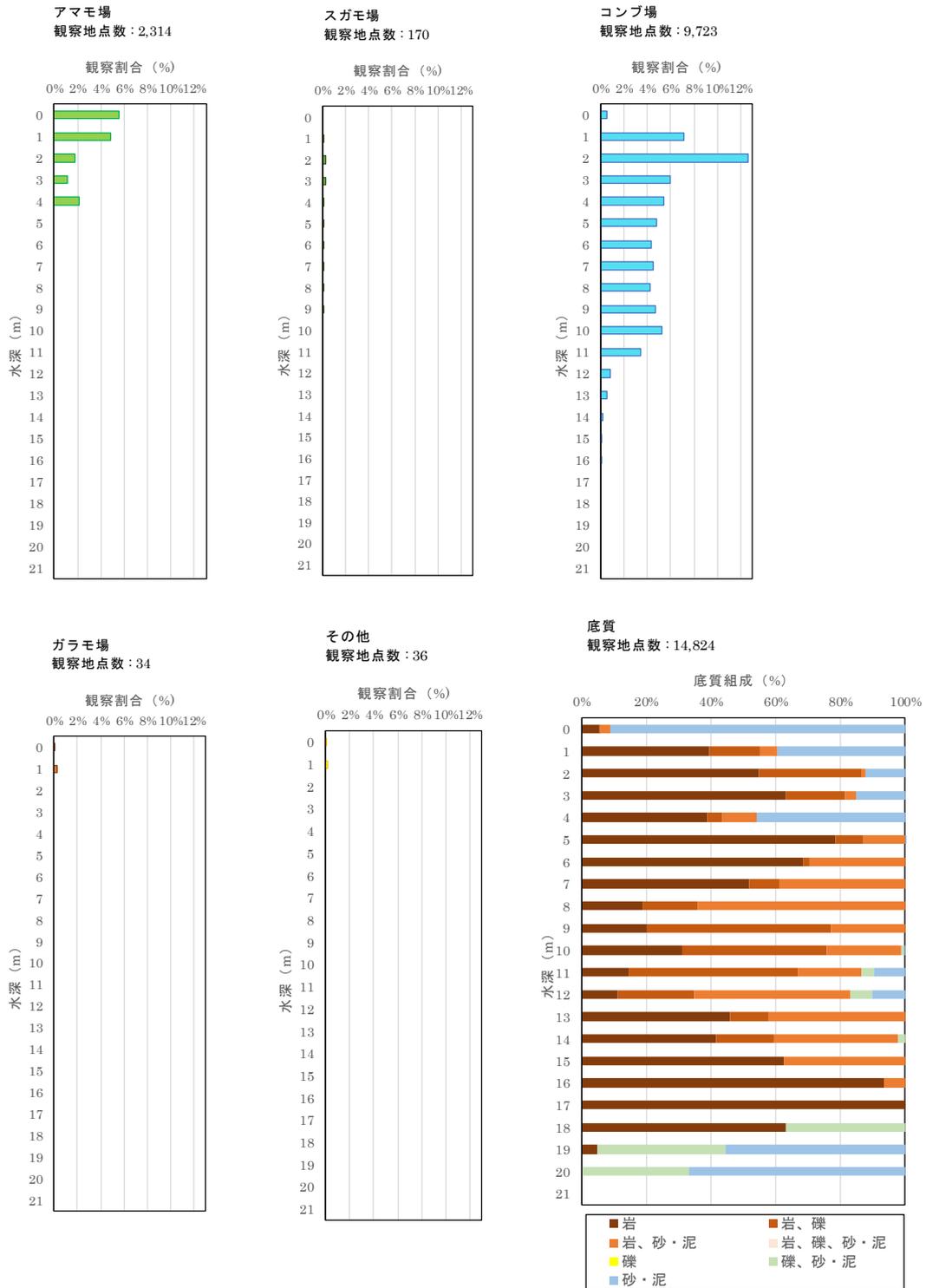


測線 7 の状況：水深約 1～13 m で、岩盤を主体とする測線であった。水深 7 m 以浅ではナガコンブが最大被度 80% でみられ、その他にスジメやアイヌワカメ、アナメ、スガモ（すべて被度 5% 未満）の海藻草類が観察された。沖に向かい水深 7～9 m ではナガコンブの被度が 5% 未満～5% で観察され、アナメが被度 5% 未満から 20% で観察された。水深 12 m 以深の砂質域では、海藻草類はみられなかった。

測線 8 の状況：水深約 2～14 m で、岸よりから沖合に向かって岩盤から砂質域に底質が変化する測線であった。水深約 5 m 以浅ではナガコンブが最大被度 80% で観察され、その他にスジメ（被度 5%）やアイヌワカメ（被度 5% 未満）、ウガノモク属（被度 5% 未満）、紅藻類（被度 10%）の海藻がみられた。水深 10～14 m ではアナメが被度 5%～10% で観察され、水深約 14 m 以深では海藻草類はみられなかった。

測線 9 の状況：水深約 1～10 m で、岩盤を主体とする測線であった。水深約 9 m 以浅ではナガコンブが最大被度 80% でみられ、その他にアイヌワカメ（被度 5% 未満）、スガモ（5%）、ウガノモク属（5% 未満）、紅藻類（5% 未満～20%）が観察された。水深約 9 m 付近ではアナメが被度 5% でみられ、それ以深では海藻草類はみられなくなった。

## 【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 15,010 地点

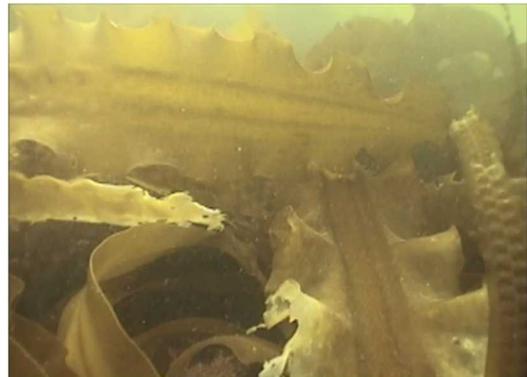
【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、離岸堤後背地や入江内の砂質域では、アマモやスゲアマモ、オオアマモの海草がみられた。岩盤上では、カジメやホンダワラ類、紅藻類（テングサ属、オゴノリ等）、褐藻類（アミジグサ科）などの海藻がみられた。

地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	2.1	ナガコンブ 60%、紅藻類 5%、アイヌワカメ+	1	ナガコンブ群落
Sp2	0.7	オオアマモ 90%、紅藻類+、シオミドロ+、緑藻類+	4	オオアマモ群落
Sp3	0.6	アマモ類（スゲアマモ？）+	4	-
Sp4	1.7	ナガコンブ 80%、アイヌワカメ+、スジメ+、紅藻類+	1	ナガコンブ群落
Sp5	4.4	ナガコンブ 60%、アカバ+	1	-
Sp6	2.6	ナガコンブ 90%、スジメ+、紅藻類+、アイヌワカメ+	1	ナガコンブ群落
Sp7	0.9	オオアマモ 80%、シオミドロ+、緑藻類+	4	オオアマモ群落
Sp8	4.4	ナガコンブ 80%、スジメ 5%、アイヌワカメ+、紅藻類 5%	1	ナガコンブ群落
Sp9	2.2	ナガコンブ 100%、スジメ+	1	ナガコンブ群落
Sp10	1.7	コンブ類 80%、紅藻類+、アイヌワカメ+	1	ナガコンブとガッガラコンブが混生
Sp11	1.8	ナガコンブ 60%、アイヌワカメ+、紅藻類 10%	1	-
Sp12	6.7	ナガコンブ 60%、アナメ 5%、ウガノモク属+	1	有筋サンゴモ多い
Sp 新規 1	1.1	スガモ 90%、オオアマモ+	1, 4	砂地と岩盤の境目
Sp 新規 2	1.0	ウガノモク属 70%、紅藻類+、カタワベニヒバ 20%	1	-
Sp 新規 3	1.0	オニコンブ 70%、ウガノモク属 20%、紅藻類+、カタワベニヒバ 5%	1	オニコンブ群落



ナガコンブ群落 水深約 10 m



オニコンブ群落 水深約 1 m



アイヌワカメ・スジメ・ナガコンブの混生藻場 水深約 2 m



オオアマモ群落 水深約 1 m

【UAV 撮影】

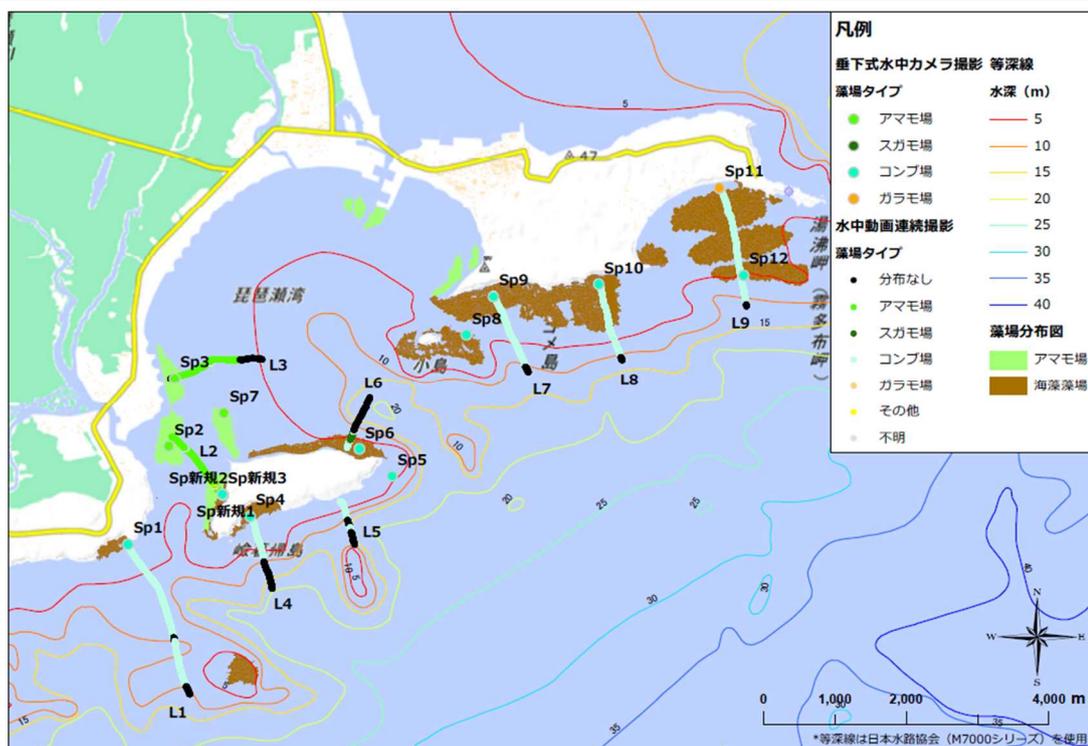
300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。海域の一部では、低輝度の藻場らしい影がみられたが、低透明度のため明確にはならなかった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
16:29-16:37	CDL1.06m	南南西・3.3m/s	1m	145.0m	500m 四方範囲で撮影

\*潮位は、霧多布海上保安庁の推算潮位

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

琵琶瀬と晩暮帰島に囲まれた琵琶瀬湾内ではオオアマモ群落が最大被度 80%で観察された。外洋に面した測線では、沖合まで緩やかな勾配の岩盤域である測線が多く、岸よりではナガコンブやオニコンブ、アイヌワカメ等のコンブ目海藻が高被度で観察された。水深約 10~13 m 付近ではアナメが優占し、それ以深は海藻草類がみられないことが多かった。



周辺状況（測線 9）



琵琶瀬湾のアマモ場



晩暮帰島の様子

(11) その他特記事項

特になし。